

キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第七部 キリスト論

- ◆ 23章 キリストの神性
- ◆ 24章 キリストの人性
- ◆ 25章 キリストの人格の統一性

第25章 キリストの人格の統一性

1. 問題の重要性と難しさ
2. 聖書における資料
3. 初期の誤謬
4. 問題解決の他の試み
5. 一人格二性の教理の基本的綱領

1. 問題の重要性と難しさ

1. 最も難解な神学的問題のひとつ
2. 矛盾する属性 - 同時にありうるのか？
3. 聖書の資料の乏しさ - 推論からの描写

2. 聖書における資料

1. 神のうちにある複数性の示唆
2. イエスの神性と人性に言及の聖句
3. 神性・人性を統一的主題として
4. イエスについての称号 - 神の子・人の子

3. 初期の誤謬 ネストリウス派

1. コンスタンチノーブルの総主教
2. 「セオトコスとしてのマリヤ」の問題
 1. 神は母をもちえない
 2. マリヤは神を生まなかつた
 3. 神の器としての人間を生んだ
3. キリストの人格の分裂
4. 二性二人格 - エペソ会議(431)で異端として非難

3. 初期の誤謬 エウチュケス派

1. コンスタンチノーブルのある修道院長
2. キリストはただひとつの性質のみ所有
3. 受肉以前と以後にそれぞれひとつの性質
4. イエスの人性は神性の中に吸収 - ドケチズム
(仮現説)的
5. 神性と人性は第三の实体・雑種的なものに融合
6. エウチュケスの主張には混乱がみられる

4. 誤った問題解決の他の試み 養子説：アドプショニズム

1. 二性一人格の問題の解決策：養子説
 1. ナザレのイエスは単なる人間
 2. ヨルダン川の洗礼 - 神の子として養子とされた - 人間が神となるケース
2. 聖書と整合せず
 1. キリストの先存在
 2. キリストの誕生物語
 3. 処女降誕

4 . 誤った問題解決の他の試み ケノーシス説

1. イエスはご自身をむなしくされた
 1. ケノー(ギ):空しくする
 2. 全能性、遍在性を放棄されたのか？
 3. 神性と人性の交換で説明
 4. 同時に神であり人であることは不可能、連続的にはありうる

4 . 誤った問題解決の他の試み 勢力的受肉の教理

1. ダイナミックな受肉の教理

1. 神・人における神の存在は、実体的統合の形式ではない
2. 人間イエスのうちにある神の力の生きた臨在である
3. キリストと私たちの相違：質的なものではなく、量的なもの

2. 聖書の記述

1. コロサイ 2:9
2. ヨハネ 1:18; 8:58
3. ヨハネ 3:16

5. 一人格二性の教理の 基本的綱領:序

1. 古典的教理の陳述:カルケドン信条
(451)
 1. 四つの否定語:混同せず、変化せず、分割せず、分離せず
 2. ひとつの人格(プロソーポン)、ひとつの本質(ヒポスタシス)

5. 一人格二性の教理の 基本的綱領:序

1. 古典的教理の陳述:カルケドン信条(451)
 1. 四つの否定語:混同せず、変化せず、分割せず、分離せず
 2. ひとつの人格(プロソーポン)、ひとつの本質(ヒポスタシス)
2. 人格の統一性・二性の統合と分離についての陳述
 1. 二性の関係はどうなのか?
 2. カルケドンの結論:本質的に否定的
 3. それは解答ではない、それ問いである
 4. 私たちはさらに、受肉の教理の本質的原則は?

5. 一人格二性の教理の 基本的綱領

1. 基本的綱領

1. 受肉は、神性の破棄ではなく、人性の入手である。
2. 二性の統合は、それらが別個に機能することを意味しない。
3. 神性と人性は、イエスにおいて最も明確に知られうる
4. 受肉の主導権は、上からであり下からではない。
5. イエスはきわめて複雑な人間と考えることは助けとなる。

2. 聖書の教えへの全き忠誠は、注意深く曲解(図示)を避けさせるものとなる